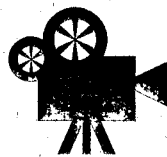


映画を読み取ろう



天理・福住小でオンライン特別授業

短編映画（ショートフィルム）から映像の持つ力を学ぶオンライン特別授業が、天理市立福住小学校であった。4～6年生の約30人が二つの教室に分かれ、講師の東野正剛さんとオンラインでつないだ。

東野さんは俳優の別所哲也さんが主宰する短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」のフェスティバルディレクター。まず3分間のクレイアニメーション作品「パン屋のビリー」を見せ、カットごとに映像から何が読み取れるのか、映像は何を意味しているのかについて丁寧に

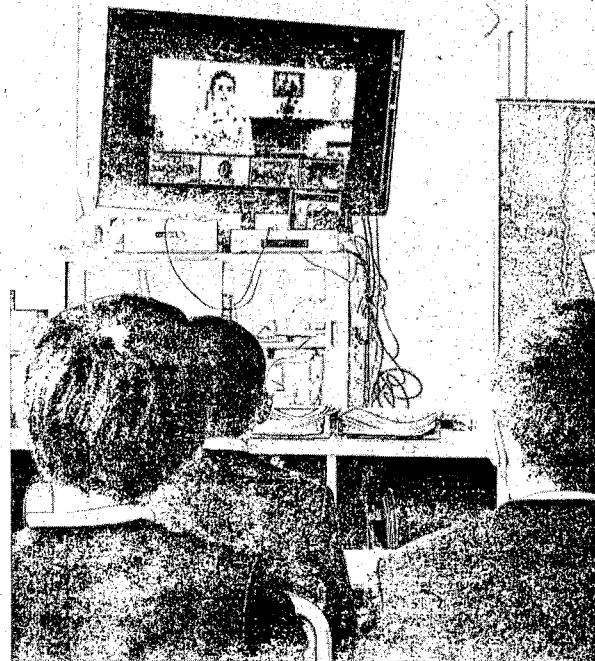
説明した。

「次は色にも注目してみてください」と、15分間の作品「サイレント・チャイルド」を見せた。東野さんは児童たちに感想を聞き、「どの人がいい人だと思った？」「その理由は？」と尋ねていった。主人公の女の子は耳が聞こえない設定。東野さんは「愛情を



モニターに向かって短編映画の感想を口にする児童たち

込められた意味は？ 視点育む



持って接するのが大切というのが、この映画からのメッセージだと思えます」。

色については、女の子に対して親身になって手話を教える女性の赤いコートを例に、「彼女の情熱を赤で表現していますね」と説明。女の子が彼女と心を通わせる中、服の色が黒っぽいものから赤になっていく変化も指摘した。

6年生の福井透羽君は「短い作品の中に、いろんなメッセージが詰まっているなと思いました。色のことは自分では気づかなかったです。今度から、そういうところも見ていこうと思います」と話していた。（篠原大輔）

モニターで短編映画を見る児童たち（いずれも天理市福住町）